

令和 6 年 5 月 2 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00483

研究課題名(和文) 清代の満洲語文法書類に関する研究

研究課題名(英文) A study on Manchu grammar books in the Qing dynasty

研究代表者

竹越 孝 (Takekoshi, Takashi)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：10295230

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、清代に刊行された満洲語の文法書類を素材として、前近代の中国語話者が外国語の文法をどのようにとらえ、どのように表現したかを探ろうとしたものである。

現存の資料による限り、明代以前には中国語による体系的な外国語の文法記述が存在しない。清代を通じて刊行され続けた中国語による満洲語文法書は、当時の中国語話者がアルタイ諸語の文法をどう認識し、それをどのように中国語で表現したかを知る上で貴重な資料である。この研究では、満洲語の格・活用・語形成といった概念が中国語でどのように表現されているか、またそれがどのような思惟に基づくものかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究では、国内外の研究機関や公共図書館において、現存する満洲語文法書を調査し、文献学的記述を残すとともに、それぞれのデータを収集した。また、収集した文献について、それぞれの異本と系統関係を整理した上で、満洲語のローマ字転写・逐語訳と形態素分析を施したクリティカル・エディションを作成した。また、それぞれの文献が、満洲語の格・活用・語形成といった概念をどのように中国語で表現しているかの一覧を作成した。

以上のような満洲語文法書の研究はこれまで体系的に行われたことがなく、一定の学術的・社会的意義を有するものと思う。

研究成果の概要(英文)：This study attempts to explore how pre-modern Chinese speakers perceived and expressed the grammar of foreign languages, using Manchu grammar books published during the Qing dynasty as material.

According to existing sources, there were no systematic grammatical descriptions of foreign languages before the Ming dynasty. The Manchu grammar books published throughout the Qing dynasty are valuable sources for understanding how Chinese speakers at that time perceived the grammar of the Altaic languages and how they expressed it in Chinese. This study clarifies how Manchu grammatical concepts such as case, conjugation, and derivation were expressed in Chinese, and what kind of thought they were based on.

研究分野：言語学

キーワード：満洲語 中国語 文法

1. 研究開始当初の背景

近代以前の中国文化圏において、非中国語の文法を体系的に記述した資料として、清代に刊行された一群の満洲語文法書類が存在する。これは、清王朝が北京に遷都(1644)して以後、急速に漢化が進行し、母語である満洲語を忘れていった満洲人のために編纂された、中国語による満洲語学習書の一部をなすものである。

清代を通じて刊行され続けた満洲語文法書は、近代以前における中国語話者の外国語文法に対する見方を反映する資料であると同時に、中国大陸における「文法」をめぐる思惟のあり方を物語る資料として大きな価値を持つ。中国における近代的文法観は、馬建忠『馬氏文通』(1898年)の出現をもって始まるというのが現在の学界における定説であるが、清代の満洲語文法書に見られる文法観を分析することは、その定説に修正を迫る可能性を秘めている。

2. 研究の目的

清代に刊行された満洲語文法書は、現代言語学の立場から見ると、素朴な記述の段階にとどまるという否定的な評価にならざるを得ない。しかし、本研究ではそうした見方を転換し、この資料群を、当時の中国語話者がアルタイ諸語の文法をどう認識し、それをどのように中国語で表現したかを考える上で貴重な素材であると考えた。

本研究の目的は、清代の満洲語文法書を素材として、近代以前の中国語話者が非中国語の文法をどのようにとらえ、どのように表現したかを探ることであり、それを中国語文化圏における「文法」をめぐる思惟の歴史の中に位置付けることであった。

3. 研究の方法

本研究では、現存する清代の満洲語文法書をくまなく収集・整理した上で、それぞれについて満洲語のローマ字転写・逐語訳と形態素分析を施したクリティカル・エディションを作成した。それをもとに、それぞれの文献が満洲語の格・活用・語形成といった概念をどのように中国語で表現しているかについての一覧表を作成し、それがどのような思惟方法に基づくものかについて考察を行った。

4. 研究成果

本研究では、作成したクリティカル・エディションと各文献における文法記述・文法的表現の一覧表をもとに、継承関係が認められるのか、通時的な変化は存在するか等について検討した。また、各文献における文法の記述や例示の方法等を詳細に検討し、そこにはどのような文法観が現れているかを分析した。

以上の考察によって得られた成果は、国内外の学会において発表するとともに、論文及び著書の形で公刊した。以下の通り。

【雑誌論文】

竹越孝(2023)『清文指要』『続編兼漢清文指要』の成書過程 版面の差異と語彙の偏在から』、『神戸外大論叢』第76巻, 137-165頁。

竹越孝・杉山豊(2023)「東国大学校所蔵乙亥字本『老朴集覽』について」、『朝鮮学報』第262輯, 155-187頁。

竹越孝(2022)「五卷本『庸言知旨』校注」, 神戸市外国語大学研究叢書第65巻, 1-446頁。

竹越孝(2022)「語彙交替と文法形式 飲食動詞の変遷を例として」, 『岩田礼教授栄休記念論文集』(地理言語学研究モノグラフシリーズNo.2)上巻, 342-359頁。

竹越孝(2021)「『兼滿漢語滿洲套話清文啓蒙』の滿漢對音 兼論清代滿漢對音的幾個側面」, 『華文教學與研究』2021年第3期, 25-32頁。

竹越孝(2021)「滿漢成語對待校注」, 神戸市外国語大学研究叢書第64巻, 1-450頁。

【学会発表】

竹越孝(2023)「“俺”は山西話, “恁”は官話 從歴史的角度探討複數人稱代詞的單數化」, 第五屆漢韓語言學國際學術研討會。

竹越孝(2023)「從“阿拉篇”看北京話動詞時態系統」, 趙元任語言學學術思想國際研討會。

竹越孝(2023)「滿語、官話與土漢話 清代滿洲旗人的語言使用」, 中国近世語学会2023年度研究總會。

Takashi Takekoshi (2023) “Examining the singularization of plural personal pronouns using a historical perspective”, The 29th Annual Conference of International Association of Chinese linguistics.

Takashi Takekoshi (2023) “Revisiting the inclusive and exclusive pronouns in premodern Chinese”, 漢語語言接觸與類型研究國際會議。

竹越孝(2022)「『清文指要』『続編兼漢清文指要』の成書過程」, 中国近世語学会2022年度研究

集会。

竹越孝 (2022) 「朝鮮時代後期漢語教科書の三種語法特徴」, 第 19 届全国近代漢語學術研討會。

竹越孝 (2022) 「五卷本『庸言知旨』の「清語元音」について」, 滿族史研究会第 37 回大會。

Takashi Takekoshi (2022) “Altaic interference in the history of Chinese: “Han’er Yanyu” and its descendants”, The 28th annual conference of International Association of Chinese Linguistics.

竹越孝 (2022) 「“漢兒言語”與“朝鮮式漢語”」, “中国北方地区語言接触与漢語歷史演变”研討會。

竹越孝 (2021) 「清代の滿漢合璧會話書と滿洲語文法書」, 第 12 回国際訳学書学会。

竹越孝 (2021) 「將副詞作為助詞使用 朝鮮時代漢語教材の語法特徴之一」, 第四屆韓漢語言學國際學術會議。

竹越孝 (2021) 「論清代初期的“混雜”語言 “滿漢兼”子弟書的語言分析」, Tracing language and population mixing in the Gansu-Qinghai area.

【図書】

竹越孝・斯欽巴圖 (2024) 『『一百条』系諸本総合対照テキスト』(III) 第 51 話～第 75 話, 総 411 頁, 好文出版。

竹越孝・斯欽巴圖 (2023) 『『一百条』系諸本総合対照テキスト』(II) 第 26 話～第 50 話, 総 478 頁, 好文出版。

竹越孝 (2022) 『方言比較与吳語史研究: 石汝杰教授栄休紀念論文集』, 陶寰・盛益民・黄河主編, 総 433 頁, 中西書局。

竹越孝 (2022) 『「譯音對勘」的材料與方法』, 孫伯君・麻曉芳主編, 総 419 頁, 黄山書社。

竹越孝・育燦・余雅亭・陳曉 (2021) 『滿漢合璧版『古新聖經』の研究』, 総 248 頁, 好文出版。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 竹越孝	4. 巻 76
2. 論文標題 『清文指要』 『續編兼漢清文指要』 の成書過程 版面の差異と語彙の偏在から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 137-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 竹越孝, 杉山豊	4. 巻 262
2. 論文標題 東国大学校所蔵乙亥字本『老朴集覽』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 朝鮮学報	6. 最初と最後の頁 155-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 竹越孝	4. 巻 65
2. 論文標題 五巻本『庸言知旨』校注	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸市外国語大学研究叢書	6. 最初と最後の頁 1-446
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 竹越孝	4. 巻 3
2. 論文標題 《兼滿漢語滿洲套話清文啓蒙》の滿漢對音 兼論清代滿漢對音的幾個側面	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 華文教學與研究	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 竹越孝	4. 巻 上
2. 論文標題 語彙交替と文法形式 飲食動詞の変遷を例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩田礼教授栄休記念論文集 (地理言語学研究モノグラフィシリーズNo.2)	6. 最初と最後の頁 342-359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹越孝	4. 巻 64
2. 論文標題 満漢成語對待校注	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸市外国語大学研究叢書	6. 最初と最後の頁 1-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Takashi Takekoshi
2. 発表標題 Examining the singularization of plural personal pronouns using a historical perspective
3. 学会等名 The 29th Annual Conference of International Association of Chinese linguistics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹越 孝
2. 発表標題 満語、官話與土漢話 清代滿洲旗人の語言使用
3. 学会等名 中国近世語学会2023年度研究総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹越 孝
2. 発表標題 “an”是山西話，“nin”是官話 從歷史的角度探討複數人稱代詞的單數化
3. 学会等名 第五屆漢韓語言學國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹越孝
2. 発表標題 從“阿拉篇”看北京話動詞時態系統
3. 学会等名 趙元任語言学学术思想國際研討会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takashi Takekoshi
2. 発表標題 Revisiting the inclusive and exclusive pronouns in premodern Chinese
3. 学会等名 漢語語言接觸與類型研究國際會議（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹越孝
2. 発表標題 『清文指要』、『統編兼漢清文指要』の成書過程
3. 学会等名 中国近世語学会2022年度研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹越孝
2. 発表標題 朝鮮時代後期漢語教科書の三種語法特徴
3. 学会等名 第19届全国近代漢語學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹越孝
2. 発表標題 五卷本『庸言知旨』の「清語元音」について
3. 学会等名 滿族史研究会第37回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takashi Takekoshi
2. 発表標題 Altaic interference in the history of Chinese: "Han'er Yanyu" and its descendants
3. 学会等名 The 28th annual conference of International Association of Chinese Linguistics（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹越孝
2. 発表標題 “漢兒言語”與“朝鮮式漢語”
3. 学会等名 “中国北方地区語言接触与漢語歷史演变”研討会（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹越孝
2. 発表標題 清代の滿漢合璧会話書と 滿洲語文法書
3. 学会等名 第12回國際訳学書学会（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹越孝
2. 発表標題 將副詞作為助詞使用 朝鮮時代漢語教材の語法特徴之一
3. 学会等名 第四屆韓漢語言學國際學術會議（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹越孝
2. 発表標題 論清代初期的“混雜”語言 “滿漢兼”子弟書の語言分析
3. 学会等名 Tracing language and population mixing in the Gansu-Qinghai area (招待講演)
4. 発表年 2021年

〔圖書〕 計5件

1. 著者名 竹越孝, 斯欽巴圖	4. 発行年 2023年
2. 出版社 好文出版	5. 総ページ数 478
3. 書名 『一百条』系諸本総合対照テキスト(11)第26話～第50話	

1. 著者名 竹越孝, 斯欽巴圖	4. 発行年 2024年
2. 出版社 好文出版	5. 総ページ数 411
3. 書名 『一百条』系諸本総合対照テキスト(III)第51話～第75話	

1. 著者名 竹越孝(陶寰、盛益民、黄河主編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中西書局	5. 総ページ数 433
3. 書名 方言比較与吳語史研究:石汝杰教授荣休紀念論文集	

1. 著者名 竹越孝(孫伯君、麻曉芳主編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 黄山書社	5. 総ページ数 419
3. 書名 「譯音對勘」的材料與方法	

1. 著者名 竹越孝・斉燦・余雅亭・陳曉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 好文出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 滿漢合璧版『古新聖經』の研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------